

ふれあい人権フェスタ2018に

参加しました

昨年11月24日(土)、和歌山ビッグホールでふれあい人権フェスタ2018が開催されました。人権フェスタに参加した人権機関有田川委員の感想を紹介します。

「ふれあい人権フェスタ2018」に参加して

穏やかな好天に恵まれた日、私は和歌山市のビッグホールで開催されたふれあい人権フェスタに出かけた。

毎年恒例の大イベントで、その日はもちろんのこと、前日から各方面の方々が会場に集う。さまざまな人権啓発物品を搬入・展示をされるなど、主催者の方々、NPO法人など各種団体の方々のご苦労が手に取るように見える壮大な催しであった。

アリーナステージでは、楽器の演奏をはじめ、ゴスペル・ダンス・寸劇・落語や、人権の詩・絵・ポスターの表彰式など、多彩な催しが次々と展開された。また別会場では、講演会や映画会、和歌山弁護士会による法律相談が、そして研修室では3つのテーマでの研修が行われていた。会場の内外は大勢の人で盛り上が

りを見せていた。

屋内には、案内によると105のブースがあり、各方面の福祉団体の展示物やバザーの品々が所狭しと並べられていた。屋外では、お腹を満たしてくれる食品を提供するお店が軒を連ね、元気な声が響き、フリーマーケットも盛況の様子だった。

そんな中私は、昨年足を止めてお話を伺ったNPO法人「国際エンゼル協会和歌山支部」のブースに立ち寄った。バン格拉デシユに支援をしている方々のブースで、今年も数多くの手芸品が展示販売されていた。昨年もお話をした兵庫県から来られたという責任者らしき方と今年もお会いでき、お話を聞いたことは幸いであつた。親しく話していく中で、現地へは何度か訪ねられていること、私と同年であることなどをお聞きすることができた。体の元気なうちはずっとこの活動を続けたいとおっしゃっていて、また来年この方にお会いできるまで、私のお話もできるような生き方をしていきたいと思った。次に、手織り工房「はあとつうはんど」に立ち寄った。このブースは、

「盲ろう者友の会」の方々の工房で、「さをり織り」を織って販売もしていた。色合い、手触りなど、どれも温かみの感じられる作品がたくさん展示されていた。目の不自由な方が立派な作品を作り上げるまでの困難さと、周りで支えておられる人たちの気の遠くなるような根気に、心からお礼を申し上げたい気持ちになった。

どのブースを見ても、障害をもつ方による作品に心を引かれた。一つ一つ心を込めて作られているのが、手に取るだけで十分理解できた。また作業所の職員の方のお話もお聞きすることができ、頭が下がる思いであった。

昭和23年(1948)に世界人権宣言が公式に認められてから70周年にあたる年に、改めて「人権」について考えさせられる好機会となった。

人権機関有田川 大西恭子

お知らせ

人権特設相談所

2月21日(木)、人権特設相談所を開催します。相談は無料で、秘密は厳守されます。

- 場所 / 清水会館
- 時間 / 13時～16時



和歌山県人権啓発

ポスターコンテスト2018

主催 / 和歌山県人権啓発ネットワーク協議会
中学生の部で1,294点の応募者の中から、吉備中学校3年 大藤涼世さんの作品が最優秀賞に選ばれました。おめでとうございます。

■人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課
TEL 5212111
FAX 3214827